

令和6年度 地域に飛び出せ大学生！

おかやま元気！集落研究・交流事業 取組概要一覧

地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業とは？

おかやま元気！集落における諸課題について、地域と協働して現状把握、課題分析を行い、課題解決や地域活性化に向けた実践的な手法の検討に取り組む大学を支援する制度です。

令和6年度は10大学18研究室が、20の元気集落で活動しました。

目次

| | | | |
|----|----------------|---|---------------------------|
| 1 | 津山市上加茂地域（知和地区） | × | 新見公立大学（高杉研究室） |
| 2 | 笠岡市六島 | × | 岡山学院大学（平野研究室） |
| 3 | 高梁市有漢町 | × | 吉備国際大学（原田研究室） |
| 4 | 新見市草間 | × | 新見公立大学（地域共生推進センター長宗ゼミ） |
| 5 | 新見市土橋 | × | 新見公立大学（柳迫研究室） |
| 6 | 真庭市二川地域 | × | ノートルダム清心女子大学（地域資源活用ゼミ） |
| 7 | 真庭市水田地域 | × | 吉備国際大学（橋本研究室・森井研究室・村上研究室） |
| 8 | 備前市神根本地区 | × | 新見公立大学（松田研究室） |
| 9 | 美作市東粟倉地区 | × | 岡山理科大学（黒田研究室・大藪研究室） |
| 10 | 矢掛町江良集落 | × | 岡山大学（床尾研究室） |
| 11 | 西粟倉村大茅地区 | × | 岡山理科大学（小田研究室） |
| 12 | 久米南町下糺地区 | × | 岡山大学（資源管理学ユニット） |
| 13 | 久米南町山手地区 | × | 中国学園大学（佐々木ゼミ） |
| 14 | 久米南町上弓削地区 | × | 岡山大学（資源管理学ユニット） |
| 15 | 美咲町大坪和地区 | × | 岡山県立大学（関根研究室） |
| 16 | 美咲町南和気地区 | × | 美作大学（松原研究室） |
| 17 | 美咲町北和気地区 | × | 中国学園大学（佐々木ゼミ） |
| 18 | 美咲町倭文西地域 | × | 岡山大学（堀研究室） |
| 19 | 吉備中央町旧高富小学校区 | × | 就実大学（薬学療法設計学研究室） |
| 20 | 吉備中央町豊野地区 | × | 岡山県立大学（穂苺研究室） |

1. 津山市上加茂地域（知和地区）

× 新見公立大学（高杉研究室）

趣旨・目的

高杉ゼミは昨年度の活動を引き継ぎながら、「アクションリサーチ」として実践と研究を融合させた取組を行い、上加茂地区の地域活性化につながる取組を企画・実施・評価することで、学生の実践研究能力を高めることを目的とする。学生は上加茂地区での地域活動に携わることで地域アセスメント能力を高め、取組を実施・評価することで調査能力を高め、卒業研究のテーマをブラッシュアップすることを目指す。上加茂地区は、学生の視点から既存の地域活動を改良し、新しい地域活動の開発を目指す。

主な取組

住民との交流

地域づくり研修会への参加、稲刈り体験、晩御飯作りなどを通じて地域住民と交流し、地域ニーズの把握に努めた。

ボッチャ大会

地区で毎年行われているウォーキング大会に「ボッチャ大会」を合わせて開催し、健康づくりの啓発を行った。

ちわDIYプロジェクト-巳年タイルアート-

知和のシンボルを作ることを目標に、昨年度に続き令和6年度の干支である「巳」をモチーフにしたボードに、学生と住民とで廃材のタイル等を使ってデコレーションを施す「巳年タイルアート」を実施した。

アンケート調査・卒業研究

今年度の活動の振り返りとしてアンケート調査を実施し、住民の意見や感想を集めるとともに、学生への要望などを調査した。また、4年生の卒業研究として上加茂地区の課題である「空き家」や「小さな拠点」に関する調査を行い、中間発表会と最終発表会を行った。



ボッチャ大会



巳年タイルアート

成果

上加茂地区の地域活動に参加することで、上加茂地区の生活・福祉に関するニーズと利用できる社会資源について把握することが出来た。また、4年生の学生が、上加茂地区の課題である「空き家」や「小さな拠点」に関して卒業研究を行い、その結果を元に地域への提案を考えてフィードバックした。

ボッチャ大会は、地域で毎年行われているウォーキング大会とコラボすることで、今までと違う健康づくり活動を実践し、健康づくりに対する意識の向上に寄与した。

ちわDIYプロジェクトでは、コミュニティデザインの方法を用いて、学生と住民が協働して「巳年タイルアート」を製作した。干支にまつわるアートを毎年作り続けることで、継続的に地域のシンボルとなるアート作品を作って、上加茂地区の広報・啓発に寄与している。

2. 笠岡市六島 × 岡山学院大学（平野研究室）

趣旨・目的

本研究室は、令和5年度より笠岡諸島最南端にある「六島」の地域や食を研究している。令和5年度は、地域資源を活用し、島への観光客の受け入れによる地域の活性化を目的に、六島の魅力の発信を「食」を通しておこなった。

令和6年度は、さらなる六島の魅力発信に向け、「六島のエコツーリズムの推進」をテーマに活動をおこなった。

主な取組

ステップ1 資源調査

学生たちは六島の登山道を調査し、自然環境を活かしたエコツーリズムの可能性を探った。登山道の整備状況や景観の特徴を記録し、観光資源としての活用方法を検討した。



登山道調査

ステップ2 島のアクティビティ体験

学生たちはグループに分かれ、島ならではのアクティビティを体験した。島民の協力のもと、自然の中での生活や地域資源を活かした活動を通じ、六島の観光資源の魅力を学んだ。



島の魚に関する講義

ステップ3 地域文化の継承

六島の堤防に描かれていた絵を復元し、島の魅力を発信した。また、地元の「六島大鳥神社のお祭り」に参加し、神輿の担ぎ手として地域の伝統文化を体験しながら交流を深めた。



復元した絵と祭りの様子

成果

六島における一連の取り組みは、六島の豊かな自然や文化に触れ、エコツーリズムの可能性を模索する貴重な機会となった。登山道調査では、島の自然環境の魅力を再発見し、堤防の絵の復元によって地域の活動を維持することに貢献した。また、アクティビティ体験やお祭りへの参加を通じて、地域の方々や関係人口との交流が深まり、六島の観光資源としての新たな魅力を見出した。

今後は、六島のエコツーリズムの発展に向けて、持続可能な地域活性化の取り組みを進めていく予定である。

3. 高梁市有漢町 × 吉備国際大学（原田研究室）

趣旨・目的

少子化に伴う課題のひとつに初等・中等教育機関の統合に伴う小中学校の廃校がある。今回、廃校の利活用に対する住民のニーズと、将来世代や現役世代が前向きな気持ちになる価値観の調査から、それらの関係性をマップにし、有漢町住民がポジティブな感情を保持するための有漢東小学校の利活用ポイントの探求活動を行った。

主な取組

対象校の外観等の調査

小学校校舎の見学と詳細の把握、周辺の地理的特徴や地域の固有性を探索した。

廃校利活用に関する先行事例の研究

大学生が全国の先行事例の情報を探った。廃校の利活用には利益性、持続性、集客性の側面への工夫が必要であるが、住民の生活の質向上や幸福感の増進につながる可能性があることをつかんだ。一方で、住民のニーズの把握が不十分なまま利活用されてきた課題を見出した。

廃校利活用のニーズに関するアンケート調査

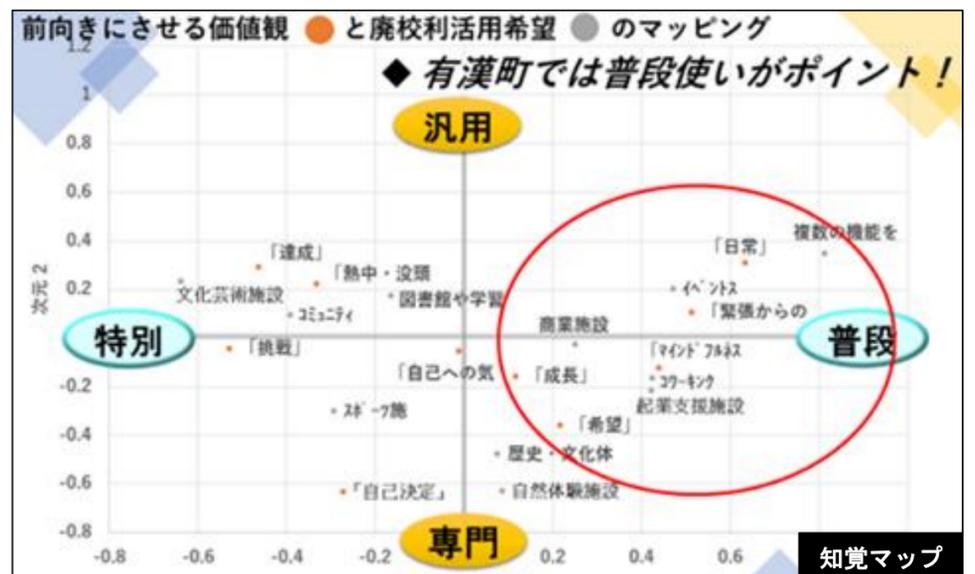
廃校問題に関心がある将来世代および現役世代を対象に、廃校の利活用ニーズを集計し、気持ちが前向きになる価値観との関係の強さについて、知覚マップで示すことができた。

有漢東小学校の利活用に関する価値観

有漢東小学校の利活用について有漢町住民に意見を求め、得られた「希望」「日常」「成長」という価値観から、知覚マップに照らして利活用ポイントを探ることができた。



対象校校舎



成果

廃校問題に関心のある将来世代と現役世代に対して、廃校の利活用ニーズおよび前向きな感情になれる個人の価値観を調査した。

その集計結果から、学校の利活用と住民の前向き感情（幸福）に結びつく可能性がある価値観の関係の強さをマップ化することができた。有漢町の方からの意見聴取で、東小学校の利活用に関する固有の価値観があることが推測された。利活用のポイントとしては、慣れ親しんだ小学校の普段使いができることであり、住民が幸せを感じられる価値観のうち「日常」「希望」「成長」と関係の強い利活用の種類は、「イベントスペース」や「複数の機能を備える複合施設」、「コワーキングスペース（遠隔勤務や副業の場）」や「起業支援施設」ないしは「商業施設」への転用ないしは拠点化であった。

廃校の利活用によって地域の方々のポジティブ感情が維持できる方法論の構築は、健康増進（0次予防）の側面での地域貢献につながると考える。

4. 新見市草間

× 新見公立大学（地域共生推進センター長宗ゼミ）

趣旨・目的

おかやま元気！集落に登録している新見市内地域運営組織と新見公立大学地域共生推進センターSA（スチューデント・アシスタント：地域貢献活動を担う学生組織）の連携事業の一環として、新見市のカルスト台地に位置する草間地区の①新たな特産品の開発、②アグリツーリズム観光周遊ルートを開発を行った。

主な取組

くさまそば粉クッキー商品化

大学開学以来初の商品化として、新見市内の製菓店と連携し、草間地区の名産そば粉を使用した「くさまそば粉クッキー」を開発し、市内4店舗での販売を開始した。



くさまっぷ・レシピ集の発行

草間地区の観光周遊ルートをまとめた観光客向けのマップ（表面）、学生考案の特産品のレシピ集（裏面）を一冊にまとめた冊子を発行し、県内観光施設へ配布した。



観光列車でのPR活動

森の芸術祭と連携し、観光列車の車内にて、くさまっぷ・レシピ集を配布し、新見市の観光ガイドを学生が行った。



留学生を対象としたモニターツアーの実施

くさまっぷに掲載の周遊ルートをめぐる留学生向けのツアーを開催し、外国人目線での草間地区の観光・自然・食の魅力を調査し、草間地区へのフィードバックを行った。

成果

特産品の開発では、大学開学以来初の商品化として、「くさまそば粉クッキー」を販売することができ、多くのメディアに掲載いただいたことで、草間地区のPRにつながった。

学生が開発した周遊ルートやレシピをまとめた「くさまっぷ・レシピ集」は、森の芸術祭との連携により、観光列車のツアー客をはじめ多くの方に配布することができ、県外海外の観光客に草間地区の魅力を学生から発信することができた。また、モニターツアーではインバウンドを意識し、岡山大学のアグリツーリズムを専攻する学生らの意見を聞くことができ、地域の観光振興に資する情報を多く得ることができた。

今後も草間地区が多くの方に愛され、楽しんでいただけるまちとなるよう、尽力していきたい。

5. 新見市土橋 × 新見公立大学（柳迫研究室）

趣旨・目的

地域行事への参加を通じて、地域課題の把握・発見を行う。また、学生と住民のコミュニケーションを図り、中山間地域での暮らしの実態と地域及びそこで暮らす住民の強み・文化や歴史などを理解し、地域課題解決に向けた解決策の模索と地域活性のための取組の在り方について考える。

地域における学生の活動が円滑に行われるよう、地域行事にはその準備段階から参加し、学生と地域住民との関係形成を図るとともに、地域の魅力とその地域で暮らす人の魅力についてSNSなどを通じて広報を行う。

主な取組

地域住民との交流

土橋地区の夏のイベントである「ほたる祭り」への参加や休耕田を用いた「サツマイモ栽培・収穫」を行った。イベントの準備、運営など一緒に作業に携わることで地域住民との交流を行った。

地域の特産物（お菓子）の開発

休耕田を活用したサツマイモ栽培にチャレンジした。収穫したサツマイモで、地域の特産品としての可能性を探るため「大学芋」を試作した。

萱刈・花植え等の保全活動への参加

環境保全活動への参加を通じて、豊かな自然環境の再発見とそこで暮らす人の地元への愛着を感じることができた。

スマホ教室の開催

地域住民を対象としたスマホ教室を開催し、SNSを用いた地域の魅力発信に向けた取組をスタートさせた。



サツマイモ栽培



スマホ教室

成果

2年目の活動となったことから、地域行事へ学生を誘っていただけするなど地域住民と学生との関係をより強固なものとするすることができた。地域全体で学生を受け入れる環境をつくることで、学生が交流イベントや環境保全活動等へ参加しやすい環境となり、学生の主体的な活動につながり、地域への愛着形成と地域活動の活性化に寄与することができた。

また、本年度では、休耕田を用いた特産品づくりに着手することができた。まだまだ試作段階ではあるが、今後の更なる開発と活用方法などを模索していきたい。

6. 真庭市二川地域

× ノートルダム清心女子大学（地域資源活用ゼミ）

趣旨・目的

二川地域の在来野菜「土居分小菜」の保存・継承をしていく上で、まず、特徴を数値化し、客観的なデータの把握が必要とされる。そこで、本研究では、土居分小菜の化学分析を行うことを目的とした。

また、土居分小菜の栽培や食文化を継承する上で、地域住民が土居分小菜を貴重な地域資源として認知・理解することが重要である。そこで、歴史資料・生産者への聞き取り調査、栽培・収穫体験により、土居分小菜の歴史背景、栽培カレンダー、化学特性を記したポスターを作成することを目的とした。

さらに、土居分小菜の特性を活かしたレシピを開発し、地域のイベントに出展し、周知を図ることを目的とした。

主な取組

土居分小菜の化学分析

アブラナ類と比較しながら、葉身長、生重量、葉色調、水分、総ポリフェノール、ビタミンC、スーパーオキシド消去試験、DPPHラジカル消去試験、味分析などを行った。



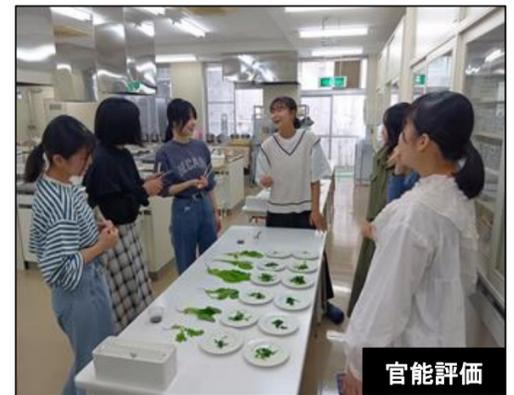
土居分小菜の生育調査

土居分小菜の栽培試験・聞き取り調査

土居分小菜および比較品種の栽培試験および聞き取り調査を行った。播種、生育調査と間引き、収穫および各種分析を約1ヶ月にわたり行った。



土居分小菜の栽培試験



官能評価

レシピ開発とイベント出展

開発したチヂミを本学大学祭およびふたかわミライエで販売した。併せて、ポスターを用いて、土居分小菜の周知を図った。



イベント出展

成果

土居分小菜は、形態的にアブラナ科類に属し、比較品種よりも早く大型化し、葉色は明るく、鮮やかな緑色・黄色をもつことを明らかにした。土居分小菜の味は、比較品種よりも味が濃く、わずかな酸味、渋味や苦味による個性的な味を示し、炒め調理のほうがその個性が際立つことを明らかにした。また、ワサビ様（イソチオシアネート）の辛味も有していた。土居分小菜の色味を活かした10種以上のレシピを考案し、チヂミを大学祭やふたかわミライエで出展し、好評を得た。これらの活動はInstagramで紹介していくつかのメディアにも取り上げられた。

7. 真庭市水田地域

× 吉備国際大学（橋本研究室・森井研究室・村上研究室）

趣旨・目的

本研究は、旧小学校体育館を大規模災害発生時の避難所として存続させたいという水田地域の要望に応じて、防災拠点として残す仕組みづくりを提案し、「生きた避難所」として「自助・共助・公助」の効率的な組み合わせの実現を目指すことを目的とした。「生きた避難所」とは、緊急時だけでなく、平時にも主に防災・減災への取り組みを行う場所として利活用されることを想定している。

さらに、本取り組みでは、大学生が防災サポーターとして活動するための経験値を高めることも目的とした。

主な取組

水田地区の防災に関する「自助・共助」の状況把握（調査）

真庭市水田地区372世帯に19項目からなる防災に関する質問紙を作成・配布し、各世帯の代表者1名に回答を依頼した。372世帯に調査依頼書と共に調査用紙を配布し、QRコードを読み取りweb上、もしくは調査用紙での回答を依頼した。

134世帯(男性90名、女性43名、無回答1名)、回収率は36%であった。年代の内訳は、30代：2名、40代：5名、50代：20名、60代：46名、70代：43名、80代：17名、無回答：1名であった。

調査報告発表・防災フェア

水田むらづくりの会の地域交流会に参加し、ポスターによる調査報告発表および防災フェアを実施した。水田むらづくりの会役員との今後の方針や情報共有を兼ねた炊き出し体験と体育館の備蓄品の確認をおこなった。

防災研修

地域住民13名、大学生4名(ファシリテーターとして参加)、教員4名の計21名が体育館を利用した1泊2日の防災研修をおこなった。

成果

- ・防災イベントや防災カフェなど参加しやすいイベントで体育館を平時から利用し、楽しみながら水田地区の防災意識を向上させることが重要である。調査結果から、一人一人の防災意識は決して低くないが、地域・組織として動くことを阻害する要因が過疎地域には潜んでいることも明らかとなった。

- ・日頃から大学生が地域の活動に参加することで、地域の人との関係性を築くことができ、防災サポーターとしての役割を果たせることが明らかとなった。



炊き出し体験



調査報告発表



防災合宿訓練

8. 備前市神根本地区 × 新見公立大学（松田研究室）

趣旨・目的

本研究室は令和4年度より神根本地区との集落研究・交流事業を行っている。昨年度は、「資源マップを活用した地域外の観光客へのアピールと資源マップの継続的な作成を通じて地域の強みの可視化の強化を図る」「いこいの広場（旧神根幼稚舎）の定期的な活用による地域住民同士の関係構築をする機会を増やし、住民同士の連帯感の強化と住み慣れた場所で暮らし続けることができる取り組みの検討」を主な目的として交流事業の継続に取り組んだ。また、試行的に神根獅子舞奉納の映像を学生が作成し、住民に披露した。それらの取り組みを発展させ、交流事業3年目である今年度は①SNS等の活用により強みの可視化の強化を図ること、②いこいの広場（旧神根幼稚舎）の定期的な活用による地域住民同士の関係構築をする機会を増やすとともに地域高齢者の社会参加の機会を増やすことを主な目的として交流事業の継続に取り組んだ。

主な取組

SNS等の活用により強みの可視化の強化を図る

基本的に本事業の活動の周知及び活動報告は公式LINEを通じて行った。参加者の増加に伴って、新たにLINEの登録をする必要がある住民については、活動時に学生が登録の仕方やスマートフォンの使い方を直接伝えるなど、住民の困りごと解決にも繋がっていた。新たに地区外への情報発信ツールとしてInstagramが開設されたことで、今回作成した神根盆踊り動画をアップするとともに、地域住民も日頃見られる神根本の美しい景色等を投稿しており、今後の新たな情報発信ツールとなる可能性がある。

いこいの広場での定期的な活動の継続

大学交流による実施回数を増やすことはできなかったが、回を重ねる毎に参加者が増加し、地域住民同士の関係構築の機会を増やすとともに地域高齢者の社会参加の機会を増やすことに繋がった可能性がある。

成果

SNS等の活用によって地域の強みを可視化する活動については、学生が作成した動画のアップのみならず、学生からのレクチャーを経て地域住民自ら情報発信する行動へ繋がったことから、2年間に渡る取り組みの成果として一連の活動は十分に評価できると思われる。

また、今年度は事前の活動日時の周知がSNSを通じてなされたことに加え、常連で参加している方が周囲の住民を連れて参加する様子も見られ、人と人とのネットワークが広がり始めていることを感じる事ができた。実際、昨年度と比較して参加者の増加が見られたほか、参加の世代が高齢者層のみだったのが子どもも含めた活動となり、地域住民同士の関係づくりの機会となったと思われる。



9. 美作市東粟倉地区

× 岡山理科大学（黒田研究室・大藪研究室）

趣旨・目的

美作アルプスの豊かな自然、後山に残る歴史・文化資源、そして魅力的な特産品を持つ東粟倉地区の魅力を、学生の視点で再発見し、新たな価値を提案することで、この地域を訪れる人を増やし、地域活性化につなげていく。そこで、(1) 後山を中心とした観光プランの提案、(2) 棚田米のブランド化という課題に取り組み、その解決策を模索する。

主な取組

後山を中心とした観光プランの提案

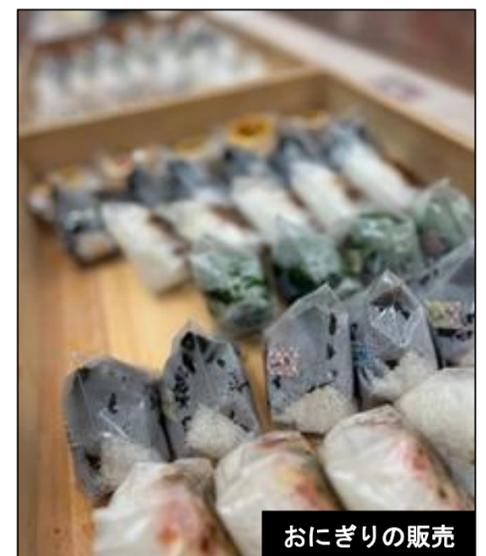
東粟倉地区を含む美作市の観光資源を調査・発掘し、それらを活用した観光プランを提案する。この地区の自然・歴史・文化は、国内外からの観光客を迎え入れるポテンシャルを有している。そこで、これらの魅力をチラシやSNS等で効果的に発信する方法の研究と観光プランを立案する。

東粟倉地区の棚田米のブランド化

東粟倉地区では、棚田で育てた米を収穫後に天日干しで乾燥させ、精米する農家がある。美作アルプスを源流とするミネラル豊富な水と、天日干しによる熟成を経た棚田米は、格別な味わいを持つ。そこで、この棚田米のブランド化に向けた戦略を検討し、地域の特産品としての価値を高める方法を考案する。

Instagramを活用した若者向けの情報発信

「SNSの力で東粟倉地区の魅力を発信し、地域活性化につなげる」ことを目的に、Instagramアカウント「あわらぼ」を開設した。SNSによる地域活性化の成功事例の調査と、効果的な活用方法を分析し、「映える写真」と「ハッシュタグ」を意識した投稿を行った。



成果

・美作市を目的地として訪れる若者を増やすため、車で巡るモデルコースのパンフレットを作成した。このコースは、東粟倉地区を含む美作市の自然の魅力を伝えることを目的としている。コース概要は、岡山駅を出発し美作市内を巡った後、最終目的地として東粟倉のグランピング場へ向かう1泊2日のドライブプランである。移動時間や滞在時間を考慮し、実用的な構成にするとともに、持ち運びやすい小型サイズのパンフレットとした。また、裏面を中国語版とし、中華圏の旅行者にも対応できるように工夫した。

・棚田米の美味しさを広めるため、おむすびの販売を実施した。まず、岡山市内に拠点を持つおにぎり専門店「おにぎりや日向」と「マチャーグリ」を訪問し、使用している米の品種やこだわりについてヒアリング調査を行い、おにぎり販売の可能性を検討した。その結果、「おにぎりや日向」の協力を得て棚田米のおにぎりを準備した。認知度向上とブランド化を目指し、「岡山Vintage Caravanどんぶらこ」での試食会、「おにぎりや日向」とのコラボによる大学内販売、表町商店街で開催されたストリートマーケットでの販売を実施した。全てのイベントで準備したおむすびを完売することができた。

・「あわらぼ」はタウン情報おかやまの公式アカウントや、岡山県東粟倉村・西粟倉村の観光課の公式アカウント、東粟倉のグランピング施設の公式アカウントから認知され、ダイレクトメッセージを通じてコラボや連携の機会を得ることができた。

10. 矢掛町江良集落 × 岡山大学（床尾研究室）

趣旨・目的

「移動のしやすさや移動手段確保のための公共アクセスの維持」と「交流人口の増加」を課題設定にし、学生は、それぞれのテーマでまちづくりに参画し、地域活性化を進める。

主な取組

少子高齢化社会の交通問題の整理

矢掛町の交通問題について、移動手段の確保や交通事故の特徴を整理し、他地域での新しいモビリティの実験などを紹介して、意見交換を行った。具体的には、「地域福祉バス」の利用が大きく減る中で、「定額タクシー」制度が新しく始まったが、今後は乗り合い形式でのタクシー活用が有効ではないかというアイデアが出された。

「日常生活の主な移動手段は自家用車である」と「公共交通を維持したい」の両方を望む“社会的ジレンマ”は、公共交通の利用につながる楽しい活動を増やしたり、使い方を工夫したりすることで、解決につなげることができるのではないかという前向きな議論を行うことができた。

地域の特産品開発を通じた交流人口の増加

集落は、梅、イモ、米の栽培をしており、学生は、それらの収穫と商品開発を行い、大学イベントに活用することとした。学生の田んぼでは、60キロの米が収穫でき、来年度の学内イベントでおにぎりを販売する計画である。また、9月開催の「やかげキッズフェスティバル」に参加し、江良集落ブースの販売サポートをした。江良集落とは年間を通じた活動を行い、留学生を含め、100名以上の学生が集落に訪れた。



意見交換会



田植え



お神輿への参加

成果

矢掛町地域公共交通計画を分析し、学生と共にその内容を江良集落に伝えた。多くの参加者は、「定額タクシー」の存在を知らず、こどものスポーツ、食事会、塾の通学など、学生、教員、地域住民と議論をし、矢掛町に政策提案をする準備を整えた。

また、多くの学生が江良集落を訪れた結果、お神輿など地域行事が維持され、学生の地域への愛着が深まった。アメリカ人留学生が、まちづくり論文を発表した。その学生は、若者と集落が連携する江良集落をモデルにして、若者に対する実践学習をコロラド州で提供している。公共交通を基軸とした集落まちづくりの分析はユニークであり、地域住民からの関心は高かった。

11. 西粟倉村大茅地区 × 岡山理科大学（小田研究室）

趣旨・目的

我々の研究室では令和4年度から活動を行っており、本年度は①大茅区有文書の翻訳支援サイト、②スマート大茅IoT・鳥獣害対策システム、以上の開発と試験運用を行った。これらのシステムを通じて、農作物被害の軽減、地域資源を活かした過疎化対策や地域活性化に貢献することを目的とする。

また、大茅地区の取り組みを広く発信し、多くの人に知ってもらうための広報活動も行った。

主な取組

大茅区有文書の翻訳支援サイト

本年度の追加機能として、ユーザが古文書の文字起こしを行い、生成AIが現代語訳を提供する機能を実装した。また、管理者による翻訳終了機能、翻訳済み文書の公開・編集・削除機能を追加し、情報管理を強化した。



翻訳支援サイト

スマート大茅IoTの開発

本年度は、鹿忌避装置に複数のセンサを追加し、キャリア通信が可能である「スマート大茅IoT」として環境情報の取得も可能にした。取得したデータはウェブ上で確認が可能であり、古文書翻訳支援サイトからアクセスできる。



高校生への取組照会

取り組みの広報活動

大茅地区にお越しいただいた高校生達に、小田研究室の取り組みを紹介し、地域課題解決や大学での学びの意義を伝えた。岡山理科大学のオープンキャンパスでは、「飛び出せ大学生事業」として、古文書解読システムや鳥獣被害対策装置を展示し、高校生や保護者の皆様の関心を集めた。



オープンキャンパス

成果

本年度の取り組みにより、古文書の翻訳支援サイトの機能強化を実現し、鹿忌避装置の改良で安定した電力供給と環境データのリアルタイム確認ができるようになったことで、地域資源の活用を促進した。加えて、広報活動を通じて地域課題への関心を高めた。

12. 久米南町下粍地区 × 岡山大学（資源管理学ユニット）

趣旨・目的

過疎・高齢化が進行する当該地域では、持続的な地域資源管理システム構築が急務である。また、一方で都市部居住の学生の大半は対象地域の様な中山間地域の現状を知る機会が少ない。

本事業を活用して、学生自身が対象地域の現状と課題を把握し、地域住民との協働でその対策を立案する。

主な取組

ため池の調査・シミュレーション

下粍地区水利組合役員や農業従事者への聞き取りを行い、ため池の水利管理の実態を把握した。そして、水利組合の決算資料の基づき、組合の財政状況を整理するとともに、地域計画作成のために行われたアンケートを用いて、ため池の廃止・集約による水利費削減の影響をシミュレーションし、水番給や作付面積の変化を評価した。



ため池の調査



収穫共同作業

地域の行事への参加

対象集落で毎年開催されている収穫共同作業・餅つき大会・お飾りづくりに参加した。いずれとも、地域住民の協力のもと運営されており、行事を通じて、地域住民と直接対話する機会を得た。住民の方々から、日常生活の様子や地域の課題、移住者の状況に関する意見などを伺うことができた。また、これらの行事には留学生も多く参加し、国際的な交流もできた。



餅つき大会

成果

調査・整理により、ため池の維持管理の負担の増加や農業従事者の急激な減少、水利組合の財政難などの課題が明らかとなり、その解決策の1つとして「ため池の廃止・集約」という選択肢をシミュレーション結果と併せて提案した。集約については、当該農家に与える影響が大きいため、地域内での合意形成を慎重に行う必要があることを伝えた。

13. 久米南町山手地区 × 中国学園大学（佐々木ゼミ）

趣旨・目的

大学生の強みを活かした、山手地区の3つの課題解決と地域づくりのサポートを行う。

- ①山手地区間でのデジタルディバイド問題の解消
- ②特産物ぶどうのブランディングサポート
- ③イベントのサポートと山手地区の情報発信

主な取組

山手夏祭りのサポート

山手夏祭り（8月）の準備・片付け、屋台での販売サポートを行った。また、中国学園大学の和太鼓サークル「鼓魂」に参加呼びかけ、中国学園大学全体で夏祭りを盛り上げた。



山手夏祭り

健康教室・料理教室の開催

11月、管理栄養士を目指す、人間栄養学科安原ゼミに依頼し、「健康教室・料理教室」開催した。



料理教室

詐欺被害防止のための講習会の開催

1月、山手地区のぶどう農家の要望により「詐欺被害防止」のためスマホ講習会を開催した。

ぶどうのブランディングの検討

山手地区で収穫される「ぶどう」の認知度向上とブランディングを目的に、学園祭（10月）にて試食会を開催した。

久米南町魅力不思議探検隊プロジェクト

インターンシップ、農業体験、フィールドワークを通じて山手地区の魅力発見し、PR動画制作を行った。完成動画は、YouTubeチャンネル「久米南町魅力不思議探検隊」にて、情報発信を行った。



スマホ講習会

成果

- ・山手の夏祭りのサポートでは、イベントの準備・後片付けだけでなく、学生が屋台の担当を任せ、祭りを盛り上げた。また、独自イベント（健康・料理教室、スマホ講習会）を開催し、40名以上の地元住民・農家に参加いただいた。
- ・山手地区で収穫される「ぶどう」のブランディング方法と販売方法の資料を作成した。また、学園祭では、ぶどうの試食会を開催し、500名以上の来場者にぶどうをふるまった。
- ・インターンシップ体験、フィールドワーク調査を撮影し、PR動画6本の動画を完成させ、YouTubeチャンネルに投稿した。
- ・食と農をテーマとした、山手地区を含めた久米南町での地域活性化の取り組みが、第5回 学生地域づくり・交流大賞（主催：全国農協観光協会）にて、「優秀賞」に選ばれた。

14. 久米南町上弓削地区

× 岡山大学（資源管理学ユニット）

趣旨・目的

久米南町全体で各資源管理活動の担い手の高齢化と減少が進行して行く中で、当交流事業を核として地域外の人材を活用しながらの地域資源管理の持続性を担保するシステムの構築が求められる。そのため地域課題の整理が必要である。

地域内のNPOや他大学の活動とも連携しながら、地域資源（農地・水路など）を維持しながら次世代へ継承していくシステムを創出していく。そのために、地域で開催される活動参加と地域計画のデータに基づき将来的な農地管理状況のシミュレートを実施した。

主な取組

地域計画に関するインタビュー調査

令和5年度より準備が進んでいた地域計画の策定について、これまでの経緯や現状を把握するため、集落代表者へのインタビュー調査を実施した。その結果、地域計画策定と同時期に農地転用を行う農家が増加していたことなど、集落内で生じている課題について把握することができた。



インタビュー調査

地域イベントへの参加

上弓削地区で行われた収穫体験や、そば打ち体験に参加し、多くの地区住民の方と交流を図った。



収穫体験

異なる視点からの農地利用案評価の把握

集落代表者と個人農家のそれぞれの視点から、農地利用の代替案を評価してもらい、調査・分析を行った。その結果、集落代表者は集落で協力して農業を継続すること、個人農家は太陽光パネルの設置（農地転用）することを、それぞれ最も支持していることが分かった。



そば打ち体験

成果

本来は次世代へ円滑に農地を受け渡すことを目標とし、農地の集約化を進めていくはずの地域計画であったが、集落代表者と個人農家との間で、農地について重視している基準が異なっていることが明らかとなった。

集落代表者は補助金獲得と農地維持を優先し、地域全体で農業を継続する方針を支持した。一方で、個人農家は次世代への負担軽減を重視し、農地の名義を手放す傾向があった。

ヒアリング調査から集落代表者も太陽光パネル設置に理解を示していたため、ゾーニングを前提とした営農計画を推し進めるべきであり、地域内の合意形成を図るべきである、と成果報告会で提案することとなった。

15. 美咲町大坪和地区 × 岡山県立大学（関根研究室）

趣旨・目的

本研究は、美咲町大坪和地区の地域活性化とグローバル化を促進するため、アクションリサーチ型のアウトリーチ研究*を推進することを目的とする。令和6年度の取り組みでは、大学生が地域おこし協力隊と連携し、「オオハガ・ローカルツーリズム」をさらに発展させ、持続可能な地域観光のモデルを確立することを目指す。特命アンバサダー（学生観光大使）とともに、地域の魅力を戦略的に発信する。

また、コミュニケーションツールの制作を通じて、海外からのビジター対応を一層強化し、国際的な観光資源としての価値を高める。

主な取組

地元住民および地域おこし協力隊と連携し、大坪和地区でワークショップを実施

>そば打ち、地域振興菓子

地域の文化、歴史、自然資源を再評価し、新たな観光コンテンツを発掘

>秋の例大祭

持続可能な観光の視点を加えた地域資源の活用方法を検討

特命アンバサダー（学生観光大使）をPR担当として位置づけ、地域の魅力をSNS等で積極的に発信

ショート動画やオンラインガイドブックを用いて視覚的・言語的に地域の魅力を強調

>美咲町子育て支援事業（ロゴ制作、CM制作）

岡山県立大学と美咲町が包括連携協定を締結

地域の魅力を言語化・可視化するため、オリジナルグッズを制作

>ネックストラップ、菓子パッケージ

地域ブランドの認知度向上を図る

>外国人向けアテンドツアー

地域住民や訪問者との対話を通じ、継続的なフィードバックを反映した改善を実施



成果

昨年同様、地域おこし協力隊と協働でのさまざまなワークショップやプレゼンの開催、地域振興菓子の作成、それらの広報戦略的な発信を通じて、「地域の魅力」を言語化・可視化・実践化することができた。また、次世代に継承可能な（大学生目線の）地域資源の探究（言語化・可視化・実践化）によって、美咲町大坪和地区の活性化に寄与することができた。

16. 美咲町南和気地区 × 美作大学（松原研究室）

趣旨・目的

美咲町南和気地区の中・高齢期の健康実態の聞き取り調査および令和5年度実施の健康づくりアンケートの調査結果を基に地域の食事傾向や生活習慣の改善点をピックアップし、住み慣れた自宅で長く健康に生活できるように啓発活動を行う。

主な取組

「学校のパン屋さんカフェ」サマーメニュー開発

昨年度、リニューアルオープンに協力した「学校のパン屋さんカフェ」が初夏を迎え、夏らしい季節限定メニューを開発し、レシピを提供した。



健康ランチ

健康ランチの提供

効率的に水分補給が行える健康ランチとして、ラタトゥイユとコンソメスープを提供した。

納涼祭で地域の方と交流

アイスの販売や開発したサマーメニューの周知を行った。



骨密度測定

イベント「骨コツワーク」

骨についての解説や骨密度測定、骨を丈夫にする食材を使った料理を提供した。

小学生親子を対象とした料理教室

「作って、食べて、目の健康を守ろう!!」をテーマに、親子で料理を作りながら、目の健康について学べる料理教室を開催した。



料理教室

成果

昨年度に引き続き、活動を行ったことで、地域交流も活発に実施できた。各イベントでの事後アンケートによると、普段から健康に気を付けている人は栄養教育が役に立ったと感じている人が多かったが、あまり健康に関心のない人は栄養教育が役に立たないと感じる傾向が見られた。

今後は、イベントに参加している人が興味を持てるよう面白いと思えるアイデアを盛り込み、健康維持に対する意識を高めていく必要があると考えた。

17. 美咲町北和気地区 × 中国学園大学（佐々木ゼミ）

趣旨・目的

大学生の強み（自由な発想と行動力など）を活かして、北和気地区の3つの困りごとの課題解決支援を行う。

- ①デジタルディバイド問題として、住民がデジタル技術を上手く活用できていない。
- ②イベントを開催しているが情報発信不足から、若者のサポート、集客状況ともに芳しくない。
- ③地区全体としてプロモーション活動が出来ておらず、認知度不足である。

主な取組

高齢者対象スマホ講習会の開催

7月に北和気地区の高齢者を対象に、スマートフォンの便利機能の紹介と個別のお悩み相談会も開催した。

納涼祭、ハロウィン祭りのサポート

納涼祭（8月）、ハロウィン祭（10月）のサポートを行い、両祭りを盛り上げた。

美咲町魅力不思議探検隊プロジェクト

インターンシップ、農業体験、フィールドワークを通じて北和気地区の魅力発見に取り組んだ。また、YouTubeチャンネル「美咲町魅力不思議探検隊」を開設し、情報発信を行った。

中大連携授業によるPR動画制作

北和気地区内にあり、2024年4月開校した小中一貫柵原学園の7年生対象授業「柵原ドリーム学」を通じて、柵原学園のPR動画を制作した。

ビジネスプラン作成（課題解決策）

情報発信、労働力不足などの北和気地区の課題解決に繋がるビジネスプランを作成した。

成果

高齢者対象スマホ講習会では、10名以上の住民に参加いただいた。LINEなど便利機能の紹介だけでなく、学生との交流も楽しむ満足度の高い講習会となった。

納涼祭、ハロウィン祭りのイベントサポートでは、イベントの準備・後片付けだけでなく、担当コーナーを任せられ、両祭りの盛り上げの一助となった。

インターンシップ体験、フィールドワーク調査を撮影し、PR動画9本の動画を完成させ、YouTubeチャンネルに投稿した。結果、1,000回以上の視聴回数となっている。（2025年5月）

北和気地区を含めた中山間地域の課題解決策として、外国人旅行者をターゲットとしたビジネスプラン「デジタルノマドトラベル」を作成した。このプランは、2024学生ビジネスプランコンテスト優秀賞（全国2位）、岡山イノベーションコンテスト2024「部門賞」「審査員特別賞」、キャンパスベンチャーグランプリ中国2024中国経済産業局長賞などを受賞した。



地区住民とのイベントでの交流



美咲町魅力不思議探検隊

2024年4月、岡山県美咲町の地域活性化を目的に中国学園大学の学生を中心に結成ボランティア活動やフィールドワークを通じて町の魅力を撮影・編集し情報発信中



美咲町を探検調査



スマホ教室（ボランティア活動）



夏祭りの盛り上げ



料理体験



農業体験



伝統文化体験



柵原学園での授業

18. 美咲町倭文西地区 × 岡山大学（堀研究室）

趣旨・目的

「倭文西地域において遊休化したログハウス及び、広大な土地に関して使い道を提案してほしい」という要望に対して、学生の柔軟な発想で遊休不動産の活用方法を提案することを目的とする。学生は現地調査及び地域住民との交流から課題を発見し、柔軟な発想から課題解決能力の向上を目指す。倭文西地域住民は学生との交流から新たな知見を得ることで、地域活性化の方針の視野を広げる機会になることを目指す。

主な取組

現地調査

遊休不動産の現状の調査及び、地域散策を通して倭文西地区に対して理解を深めるとともに、地域住民からのニーズの吸収を行った。また、美咲町長との面会や美咲町生涯学習センターの見学を行い、美咲町に対する理解も進めた。



現地調査



ログハウスを活用したマルシェ

まちづくり協議会・地域イベントへの参加

まちづくり協議会や「ログハウスを活用したマルシェ」などのイベントへの参加から交流を深めるとともに、遊休不動産活用に関する現在の状況について知見をいただいた。



最終報告会

活用方法の提案

最終案として結婚式場へのコンバージョン案を提案した。今回の提案ではライフラインについての言及は行わなかったが、地域の方々とともに、今後、どうすれば実現可能なのかについても話し合いを行った。

ホームページの作成

岡山大学DS部と連携して、DS部と堀研究室のメンバーを中心に、倭文西まちづくり協議会のホームページを作成した。



作成したホームページ

成果

倭文西地域においての当該プロジェクトにおいて「新たな視点の創出」と「関係人口の増加」という2つの成果を得た。最終案の結婚式場にコンバージョンする提案では、学生ならではのイベントや付加価値を提案した。学生は学内の学びだけでなく、実際に現地調査やまちづくり協議会への参加、地域イベントへの参加等の学外の学びから幅広い知見が身についた。地域の方々温かく迎え入れてくれたことで学生が倭文西に愛着を持って活動できた要因だと考える。今後も倭文西に関わりたい学生も多く、関係人口として倭文西地域の活性化に貢献していきたい。

19. 吉備中央町旧高富小学校区

× 就実大学（薬学療法設計学研究室）

趣旨・目的

高齢化率の高い中山間部等の医療過疎地域に住まう住民の方々を対象とした薬学的観点からの健康維持増進、ならびに、薬学部学生を対象とした将来の医療従事者として地域医療の一端を担うという使命感と倫理観の醸成を目的として、地域の高齢者サロンである“ももカフェ”にて健康寿命の延伸をテーマとした大学生考案のイベントを継続的に実施し、その効果について検証を行う。また、地域の子供も達と大学生との交流を通じ、新たな地域活動の構築に繋げるなど、地域の活性化に貢献する。

主な取組

高齢者サロン“ももカフェ”における認知症予防及び骨粗しょう症予防活動の実施

学生が企画立案した認知症予防のための講習会やボールを使った健康体操を継続的に実施した。また、管理栄養士監修の骨密度増強に向けた資材を配布すると共に、骨密度の測定会を開催した。



“ももカフェ”

地域の夏祭りにおけるブース出展

円城なつものがたり2024にて、主に地域の子供も達との交流を目的に、ゲームブースとキーホルダーづくりのブースを出展した。



ブース出展

小学生を対象とした実験教室及び勉強会の開催

円城地区の学童に通う児童を対象に、勉強の楽しさ及び科学への関心を高めることを目的に、勉強会&実験教室を開催した。



アンケート調査

認知症及び骨粗鬆症に関するアンケート調査の実施

ももカフェ利用者を対象に、認知症と骨粗鬆症に関する予防意識や上述した学生による取り組みの満足度についてアンケート調査を行った。

成果

地域の高齢者サロンにて、3年間継続して大学生の視点やアイデアを盛り込んだ健康増進に繋がる活動を実施するとともに、本活動をもとに地域の薬局薬剤師や、管理栄養士、地域包括支援センター、社会福祉協議会等とも連携することで、地域の高齢者の健康づくりに貢献することができた。また、地域の夏祭りへの参画や小学生を対象とした交流勉強会を開催するなど、地域全体との交流へと活動の幅を拓けることができた。今回実施した様々なアンケート調査結果や健康増進活動の取り組み成果について、全国的な学会を含め計3回発表を行い、薬剤師が地域医療に関わる重要性とその効果について社会発信することができた。

20. 吉備中央町豊野地区 × 岡山県立大学（穂苅研究室）

趣旨・目的

本活動の主題は、地域社会から放擲された空き家をめぐる問題の諸相を把握の上、活用に向けた調査と実践から、農山村における持続可能な集落保全システムの構築に寄与する手がかりを得ることにある。当研究室では、学生有志によるプロジェクト「吉備中央町酒蔵再生プロジェクト」を立ち上げ、これまで生活史インタビュー調査から旧豊野村に住まう人びとの生活や営みの移り変わりを記録しまとめる取り組み（2021-2022年度）や、空き家となった江戸時代の庄屋「小出家」の片付け・清掃、実測調査からかつての営みとそれを取りまく環境との関係を再評価する取り組み（2023-2024年度）を行なっている。

主な取組

実測調査

昨年の平面図・立面図作成に続き、断面図の作成を行なった。



実測調査

蔵の大掃除

近隣の地域住民と小出家蔵の清掃・片付けと敷地周囲の草刈りを実施した。

地域の方との交流会（猪肉BBQ）

蔵の大掃除後に地域住民の自宅に集まり、交流会（猪肉BBQ）を実施した。



交流会（猪肉BBQ）

案山子祭りの復活提案

小出家近くの地域行事（主基田の案山子祭り）が数年前から廃止となっていることを知り、復活開催を提案した。



案山子まつりについての聞き取り

成果

「小出家」の活用に向けた活動（空き家の清掃・片付け、実測調査など）は、周辺の地域住民との交流や共同作業のきっかけとなるのと同時に、耕作放棄地の増加、山林の維持管理不全、地域行事の衰退など地域の窮状をより深く理解する機会の獲得につながった。また、地域住民との交流が促進されたことで、平成30年（2018）の第20回目を最後に廃止していた地域行事（主基田の案山子祭り）の復活開催を、等研究室と共同で実施する動きへとつながった。